

京都府がん医療戦略推進会議・第 32 回相談支援部会

◇日時:2022 年 7 月 27 日(水)14:00~15:20

◇場所:オンライン会議

議題

1. 京都府からの情報提供

①がん相談員のための相談支援マニュアル(第 3 版)の改訂について

各施設で確認いただき何か意見等あれば知らせること。

②京都府がん情報ガイド(第 9 版)について

現在第 8 版使用中だが、先週に第 9 版の原稿について各病院に照会中。10 月までには発刊予定。意見あれば知らせること。

2. 第 18 回 都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会

情報提供・相談支援部会(5 月 26 日)の報告等について

5 月 26 日に第 18 回都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会情報提供・相談支援部会が WEB 開催された。その会に関連した内容が、7 月 21 日に YouTube で発表された。

・がんと診断されて間もない人への情報資材の活用について

小冊子「がんと診断されたあなたに知ってほしいこと」は国立がん研究センターのホームページで発注可能な状態。5 月の時点では全国で 1 万冊の初回発注があった。150 施設程度が発注済。医師から患者に内容を説明のうえ、手渡す形が望ましい。どのように医師から渡してもらうか試行錯誤中。冊子に関する調査研究をされる予定であり、早ければ次回(第 19 回)の都道府県がん診療連携拠点病院連絡協議会で報告がある予定。

・人材配置について

都道府県拠点病院および地域拠点(国指定)病院は相談員を専従 3 名以上配置、地域拠点病院では専従 2 名と専任 1 名以上配置するよう、また職種についても、1 名は看護師、もう 1 名は社会福祉士もしくは精神保健福祉士と明記するよう要件変更を国に 5 月 26 日時点で提案していた。7 月 21 日の YouTube で役員が公開で検討したが、国指定は相談員が基礎研修Ⅲまで修了していることは変わらないが、1 名は社会福祉士であることが望ましいという内容で終わっている。都道府県がん診療連携拠点病院の指定要件については、国指定の要件は満たした上で、相談支援に携わる専従者を 2 名以上配置が望ましい(*)となっている。(*)は次期の指定要件の改定で必須化する項目で今回は見送られている。資格を明確化して、専従要員も増やすと国から要件があれば、もっとがん相談の業務がやりやすくなって患者のためになると考えていた相談員の皆さんにとってはある意味残念な改定となっている。専従の WEB 会議に長けた事務を配置するように提案もしていたが、その項目も一切あがっていない。

3. 令和 4 年度 相談支援部会研修について

「がんになった親へのエールとなる支援～親の言葉の背景に思いを馳せる～」と題して、がんになった親御さん、その親の中でも子を持っていて自分ががんになった親御さんに対してエールとなる支援として、研修会を 2022 年 10 月 22 日(土)13:00~16:00 でオンライン開催予定。京都府下の病院勤務者で興味のある方が対象、50 名程度で予定。申し込み方法は QR コードや URL から申し込み出来るよう準備中。国立がん研究センターの認定がん専門相談員Ⅲ群研修に該当。8 月 22 日から応募開始予定。

4. 各施設からの報告

①院内サロン・ピアサポーター等活動状況

- ・院内サロンは少人数で開催時期を検討中。
- ・ピアサポーター等活動について10月からオンラインでの再開を検討。
- ・院内がんサロンは再開の目途立たず。オンラインでの再開も検討。
- ・院内サロンは5月から時間短縮で事前申し込み制にして再開。
- ・院内サロンは休会。
- ・院内サロンは昨年度より開設。今年度の開催は未定。新型コロナウイルスの感染状況をみて小規模で開催予定。
- ・院内サロンは昨年オンラインで再開したが対面の要望があり検討中。今年度はがん種を問わないサロンを年3回程度オンラインで開催予定。
- ・院内サロンは今年度に少人数で再開予定であったが新型コロナウイルスが増えてきた為検討中。
- ・院内サロンの部屋が新しくなったが8人ぐらいしか入れない。今後人数が増えた場合は院内のホールなどで行う必要あり。ハイブリッドでの開催も検討。
- ・院内サロンはオンラインで開催。8/27にオンラインイベント開催。テーマ「がんの痛みどうしたらいいの」予約受付中。
- ・8/24に学習会と院内サロンを再開。学習会はハイブリッドで、サロンは参集形式で開催。テーマ「コロナ禍におけるメンタルヘルス」。広報誌にピアサポートの通信欄を設けて一言コメントを掲載するために募集中。
- ・患者会に参加したいが、どこも休止中であるという相談があるので、オンラインで開催されている患者会やサロンの情報を伝えている。

②各センターの取り組み

- ・療養・就労両立支援指導料について意見書を出して3ヶ月算定した患者に、改めて意見書を出したら同じ患者で2回目の算定が可能か近畿厚生局に問い合わせしていた結果について、可能であると回答を得た。小児向けのリーフレットを小児がん相談員が中心となって作成。ホームページからダウンロードも可能。
- ・患者家族のためのがんセミナーを定期的(年数回)に開催。直近では6/23にオンラインで開催。ハローワーク就労支援や産業保健総合支援センターの両立支援の出張相談はオンラインですでに再開。
- ・産業保健総合支援センター主催のオンライン会議に参加。
- ・年2回開催している市民公開講座で7月に「がんと向き合う」をテーマに開催。出張がん相談のスペースを設けて希望者への相談対応を行った。コロナ禍で面会制限が続く中で在宅看取りを希望する患者が増えており、先日小児がんの中学生の在宅看取り相談あり。患児が亡くなったあとに連携施設とカンファレンスも行った。
- ・7月より産業保健総合支援センターと出張相談の協定を結んだので該当者いたら繋げたい。
- ・昨年に引き続き、オンラインでの府民公開講座を計画中。
- ・がん相談センターのホームページからピアサポーターと共同で情報発信・動画配信など行っている。
- ・がん患者に向けての冊子の作成を話し合い中。
- ・就労支援について、ハローワークや産業保健総合支援センターとの連携、院内での周知を強化して相談実績を増やしていく試み。院内外の医療者向けの研修会を複数回開催予定。①認知症がん患者の意思決定支援(10/22開催)②がん患者のACP(11/10開催)③がん治療と仕事の両立支援(日未定)④がんゲノ

ム(日未定)⑤小児・AYA 世代の妊孕性(日未定)。ボランティア団体との連携を実施, ACPの冊子を準備中。年末か年明けに発行予定。

・イベントに出向いて出張相談を行っているが, 新型コロナウイルスの影響で去年は1ヶ所のみであった。今年度は 10 回程度予定しているが新型コロナウイルスの状況で様子を見ながら行う。昨年9月よりオンライン対面相談実施。昨年度は 1 件。各施設にちらしの掲示について協力いただいている。デジタルサイネージによる広告実施。6/6 より京都駅と地下鉄四条駅の通路にセンターの広告掲示。地下鉄京都駅のホームドアにがん相談支援センターの広告を掲示。期間は7/1 から8/4 まで。京都新聞の8/25 の朝刊医療のページにがん相談支援センターの内容を掲載。

5. その他

・小児がん拠点病院の近畿ブロックの相談支援部会と協力して, 今年度の小児がん相談研修を企画中。日時は令和4年 11 月5日(土)。オンライン形式で開催。対象者は近畿ブロックにおける小児・AYA世代がんの患者・家族の相談に係わる相談員と看護師。募集人数はグループワークも予定しており 30 名程度。テーマは「小児・AYA世代がんにおける妊孕性の温存について学ぶ」。周知方法について決まればチラシ配布予定。国立がん研究センターの認定がん専門相談員Ⅲ群研修に申請予定。